

～ 腫瘍マーカーについて ～

体内に腫瘍ができると血液中や分泌物中に蛋白質や酵素、ホルモンなどの特別な物質が増えてきます。それが腫瘍マーカーです。

腫瘍の発生によって増加してきたとき、それをとらえて腫瘍の存在やその部位を推測することができます。

しかし、腫瘍マーカーの値が高くても確実に腫瘍が存在することを示すものではありません。また、発症臓器の特定や、良性悪性の判断をすることはできませんし、生活習慣などで異常値を示すこともあります。



腫瘍マーカー	対象となる悪性腫瘍	備考
AFP	肝細胞癌、肝がん、 転移性肝がん、胃がん	肝硬変・慢性活動性肝炎・胃 癌・膵癌・妊娠で高値傾向
CEA	大腸がん、胃がん、肺がん、 乳がん、子宮がん、卵巣がん、胆 道がん、膵がんなど	高齢・喫煙で偽陽性になる
CA19-9	膵がん、胆嚢・胆管がん、 胃がん、大腸がん、卵巣がん、子 宮がん、肺がん	糖尿病・慢性肝炎・胆石症な どで偽陽性
SCC	子宮頸部、頭頸部がん、食道がん 肺扁平上皮がん、皮膚がんなど	良性の腫瘍でも陽性を認める 場合がある
CYFRA	肺扁平上皮がん、肺腺がん、 子宮がん、食道がん	喫煙や肺の疾患の影響を受け にくい 卵巣癌や子宮癌でも陽性を 認める場合がある